【公園・緑地】長居公園を中心とした公園体系

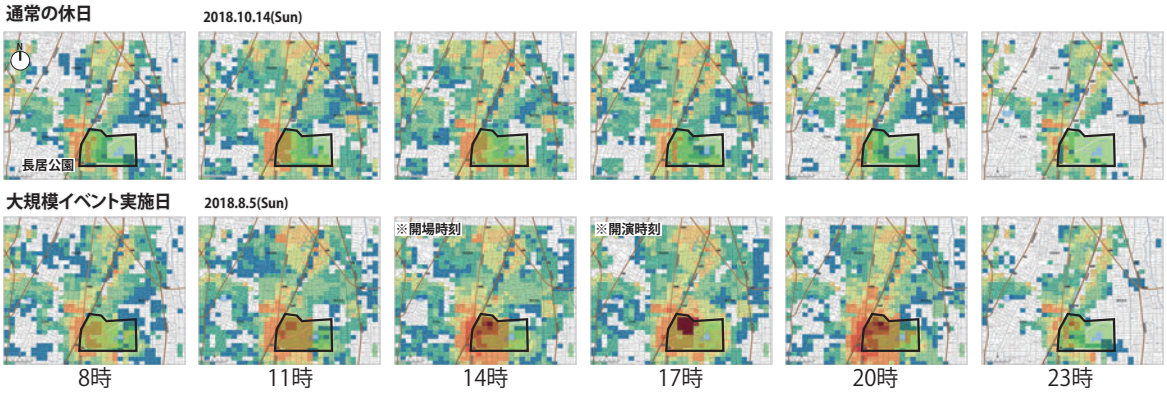
・長居公園は公園として大阪市内で第 3 位の規模を誇っており、区内には**長居公園を筆頭に、大小の公園や、河川空間など、人々が憩い、遊ぶことができる場が多く存在**しています。

・また、長居公園を中心に、**JR 阪和線沿いに中規模の公園が連なっており、良好な緑のネットワーク**を形成しています。

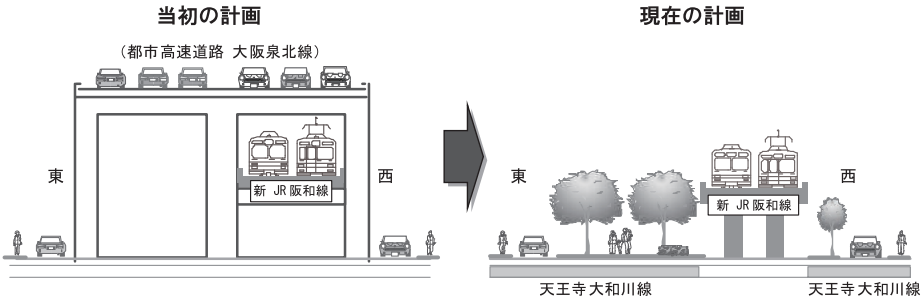
・住民の憩いの場として、また、プロスポーツやライブイベントの会場として非常に強い集客力を持つ長居公園ですが、**来訪者は公園周辺のまちを回遊することなく帰ってしまう**など、公園体系の資源を十分に活かせていない状況です。イベントがあり公園が非常に多くの人を集める日でも、そうでない日と比べて公園周辺の人出に変化がないことが下図より分かります。

・JR 阪和線沿いには**都市計画道路天王寺大和川線**が「風かおる”みち”」をコンセプトとして基本方針が定まっており、みどりの空間として、まちの価値を高めることが期待されます。

長居公園



長居公園周辺の休日（イベント無 / 有）の来街者密度



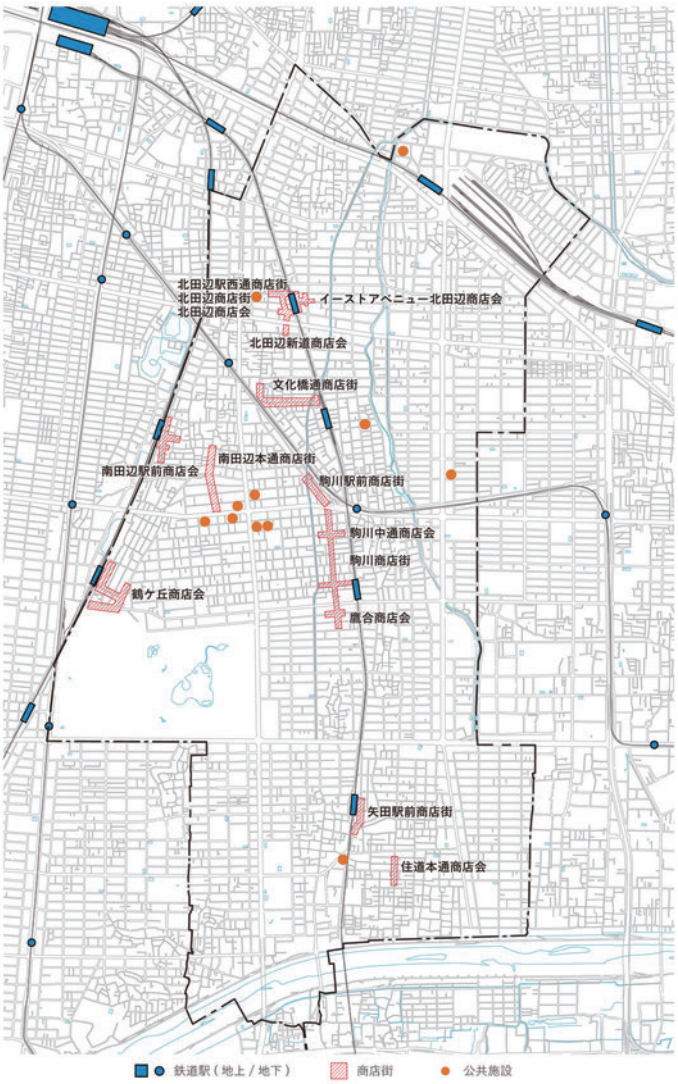
都市計画道路天王寺大和川線　計画断面

【生活】地域コミュニティの機能低下

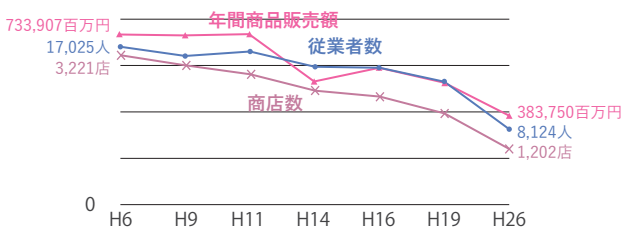
・市内有数の規模を誇る商店街である**駒川商店街**を筆頭に、区内には**各駅周辺に商店街が形成**されており、周辺住民の生活を支えています。

・しかし、区内の商店数、商店従業者数、年間商品販売額いずれも近年は減少傾向にあり、**商店街の活力の低下、来訪者の減少が懸念**されます。

・商店が駅周辺に立地する一方で、区役所をはじめとする公共施設は駅から離れたところに立地する傾向にあり、区民のアクセス手段の乏しさ等が課題となっています。



区内の拠点機能（鉄道駅・商店街・公共施設の立地）*

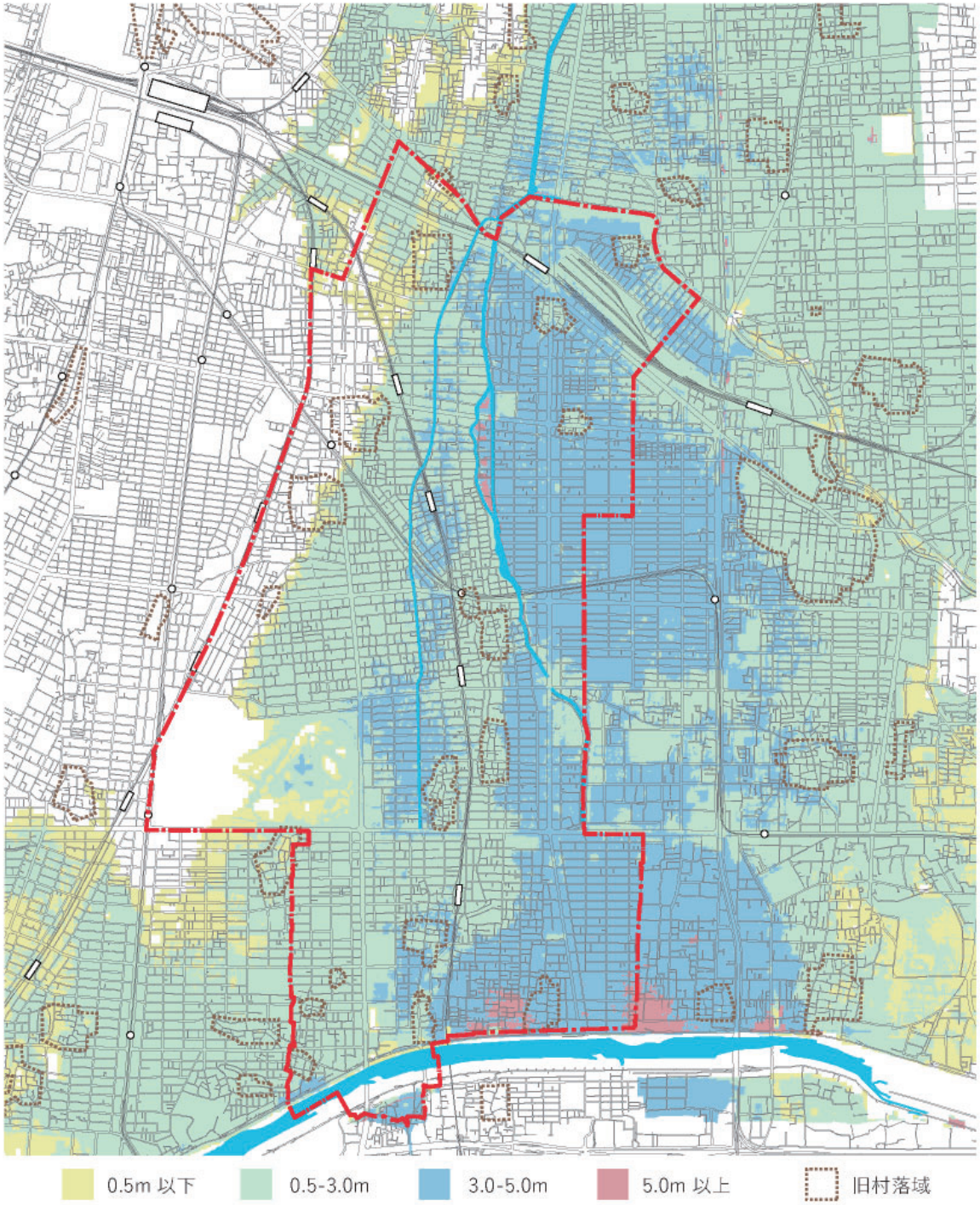


区の商業の推移 *

【防災】大規模災害の不安

・近年、全国各地で激甚な被害をもたらす水災害が毎年のように発生しています。区内では南端を流れる大和川が氾濫した場合が最も広く被害を受けることが想定されます。

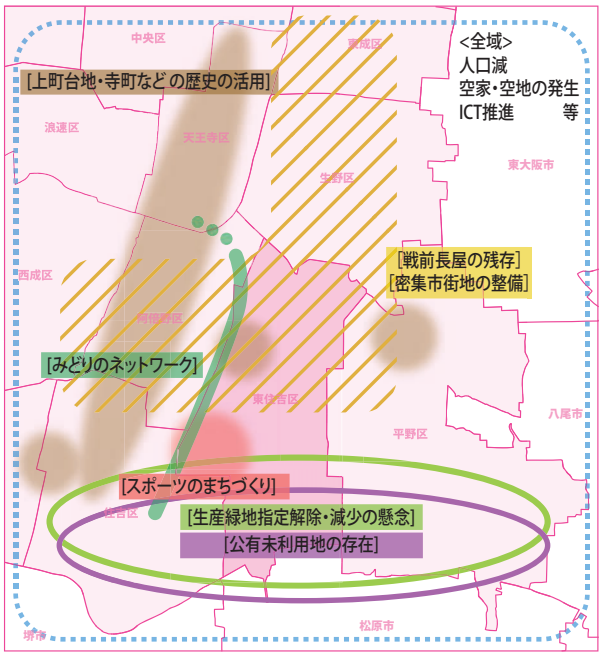
・想定浸水深は、区南部・東部・今川周辺で深く、周辺より地面が高くなっている旧村落域は、比較的浅くなっています。



浸水想定区域図（大和川が氾濫した場合）*

周辺区と共通する資源・課題

・周辺区は地理・歴史的に共通項が多く、公有未利用地の存在、生産緑地の存在、人口・世帯数減少など、類似した資源・課題があります。
・共通する資源・課題をもつ周辺区と連携することで、まちづくりの効果の最大化を図ることが望ましいといえます。



周辺区と共通する資源・課題

まとめ

・これまでの分析をまとめると、区の特徴は下記のようになります。

▪ 都心・ターミナルへの近さ

- 区内には多くの鉄道路線が乗り入れており、その駅密度の高さや、都心やターミナルまでの所要時間の短さから、都心近在の郊外住宅地としての利便性の高さが大きな特長となっています。
一方で、駅周辺や商店街の活力が低下しつつあり、都心アクセスの利便性は高いものの徒歩圏内の生活利便性の低下が懸念されます。

▪ 戸建て主体の落ち着いたまちなみ

- 戸建て住宅の割合が高く、また旧村落部のまちなみが残っているため、低層で落ち着いた雰囲気が資源となっています。今川・駒川が区中央部を流れ、良好な環境を呈していますが、同時に周辺は浸水のリスクが課題となっています。

▪ 農空間の残存・のびやかな環境

- 区南部には農空間が多く残っており、都心直近で農活動が楽しめる場所として活用が期待されます。同時に、市営住宅や長屋が多く、建替えに伴う余剰地の発生や、長屋の空家化の進行に対して、まちづくりの方向性を立てる必要があるといえます。

▪ 長居公園の存在

- 大阪市内唯一の運動公園である長居公園は、区がもつ最大の集客要素であり、憩いの場やスポーツの舞台として、更なる活用が期待されます。一方で、人々のアクティビティが公園内で完結しており周辺のまちへの回遊が不十分であるため、周辺の一体的な活用により公園の持つポテンシャルを最大限に活かすことが求められます。